



洞爺湖温泉誕生 100年事業委員会 イベント部長

温泉8区
北島良人さん(51)

「この温泉誕生100年を機会に、温泉街を大きく変えていきたい」。

洞爺湖温泉観光協会の理事として、夏や冬のおまつりなどのイベントに携わり、友人はだしの辛口な司会ぶりを長年披露してきました。

現在、サミット開催やジオパーク加盟など町をとりまく環境の変化を、活性化に直接結びつけるきっかけにしたいと記念事業の成功に向けて奔走しています。

6月26、27日の「TOYAK



「オマンガ・アニメフェスタ」や洞爺湖畔を手をつないで踊る「マイムマイム」などのイベントも、外への発信だけでなく、地元住民をも巻き込んだ、継続的なものにしていきたいとその想いを語ります。

「何年も前から『にぎわいを取り戻そう』と言ってきましたが、現実はあまり変わっていない。それは、だれもが人任せにしてしまって、一部の人がやる雰囲気ができあがってしまったこと」が原因と言います。

建設業を営みながら、様々なイベントに携わるのは、「観光を主要産業にしている町で、温泉街の活性化は、単に観光業者だけの問題ではなく、町民一人ひとりの生活に関わる問題ではないか」とその意図を隠しません。

「デフレ、景気低迷など観光地としては、厳しい状況が続きますが、「いろんな立場の人が、自分のできることでこの誕生100年のイベントに関してほしい」と町民皆さんへの協力を呼びかけています。

黄綬褒章に川人さん

2010年の春の褒章で、西胆振で一人月浦の川人健一さんが、黄綬褒章を受章しました。

業務精励（郵便集配業務）として、長年一筋で行ってきたことが認められました。

川人さんは「22年間で3日しか休まず郵便物を配ってきました。これを励みにこれからもがんばりたい」と笑顔で話してくれました。



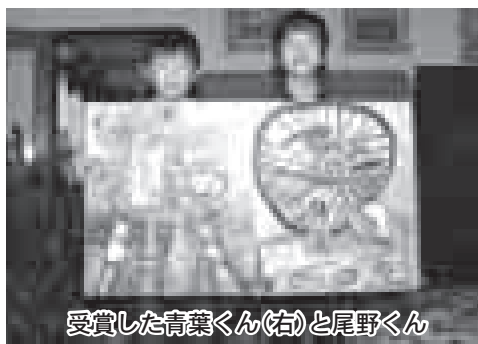
とうや小 青葉くん、尾野くん 第55回全日本学生美術展で受賞

公募として国内最大級の第55回全日本学生美術展（全日本学生美術会主催）で、大島忠昭さん（洞第3）が主宰する美術教室に通う青葉智寛くん（洞爺小6年）と尾野寿馬くん（同）がそれぞれ特選と佳作に選ばれました。

青葉くんの「ブロックと車輪」は、ブロックの切り方と歪んだ車輪が特徴で、同教室では14年ぶりの特選受賞。

尾野くんの作品「卓上の花」は、画面構成がしっかりしていて、ガラス瓶や花瓶のタッチが力強い作品に仕上がっています。

大島さんは「青葉くんは、形のゆがみが画面に動きを与えている。背景の色使いも変化があ



受賞した青葉くん(右)と尾野くん